

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	國學院大學		
② 大学等の設置者	学校法人國學院大學	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	東京都渋谷区東4-10-28		
⑤ 申請するプログラム名称	データサイエンス教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	251	人
		(非常勤)	676
			人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		4	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	2,210		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	9,810
			人
1年次	2,321	人	2年次
			2,254
			人
3年次	2,413	人	4年次
			2,822
			人
5年次		人	6年次
			人
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	針本 正行	(役職名)	学長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	共通教育センター委員会		
(責任者名)	捧 剛	(役職名)	共通教育センター長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	共通教育プログラム科目マネジメント会議		
(責任者名)	捧 剛	(役職名)	共通教育センター長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	教学事務部教務課	担当者名	松本 忠和
E-mail	kyoumu_s@kokugakuin.ac.jp	電話番号	03-5466-0135

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

プログラムを構成する「データ・リテラシー」2単位、「コンピュータと情報Ⅱ」2単位、合計4単位を取得すること。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
データ・リテラシー	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
データ・リテラシー	2	○	全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
データ・リテラシー	2	○	全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
データ・リテラシー	2	○	全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
データ・リテラシー	2	○	全学開講	○	○	○							
コンピュータと情報Ⅱ	2	○	全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データリテラシーを学ぶ意義、情報を取り巻く社会との関係「データ・リテラシー」(1回目) ・情報とコミュニケーション「データ・リテラシー」(2回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスと人工知能(AI)「データ・リテラシー」(15回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースの基本概念とさまざまなデータベース「データ・リテラシー」(13回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・情報のデジタル化「データ・リテラシー」(9回目) ・データサイエンスの基礎「データ・リテラシー」(13回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワーク「データ・リテラシー」(5・6回目) ・アルゴリズムとプログラミング「データ・リテラシー」(12回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・社会と情報システム「データ・リテラシー」(4回目)
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報倫理「データ・リテラシー」(3回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ「データ・リテラシー」(7・8回目)
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化とシミュレーション「データ・リテラシー」(14回目) ・表計算関数、グラフ作成、データベース機能の利用「コンピュータと情報Ⅱ」(6～11回目) ・Excel入門、Excelの活用、Excelの活用と応用「コンピュータと情報Ⅱ」(5～15回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化とシミュレーション「データ・リテラシー」(14回目) ・表計算関数、グラフ作成、データベース機能の利用「コンピュータと情報Ⅱ」(6～11回目) ・Excel入門、Excelの活用、Excelの活用と応用「コンピュータと情報Ⅱ」(5～15回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化とシミュレーション「データ・リテラシー」(14回目) ・表計算関数、グラフ作成、データベース機能の利用「コンピュータと情報Ⅱ」(6～11回目) ・Excel入門、Excelの活用、Excelの活用と応用「コンピュータと情報Ⅱ」(5～15回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会において必要な情報学及びデータリテラシー、情報及びデータと経済・経営との関わりへの理解と適用・影響を考えられる能力、情報倫理やセキュリティとそれらに関連する法令知識、情報処理と情報通信技術に関する知識、情報及びデータ処理時に情報倫理やセキュリティに配慮して行動する能力、情報通信技術のニュースや記事を確認して動向を追う能力を身に付けることができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/curriculum/p1>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	690	2760	43	0											43	2%
法学部	500	2000	37	0											37	2%
経済学部	510	2040	172	0											172	8%
神道文化学部	180	720	6	0											6	1%
人間開発学部	330	1320	19	0											19	1%
合計	2210	8840	277	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	277	3%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

共通教育センター規程

② 体制の目的

本学学生の幅広い教養の修得と、それらを通じた人間性の涵養を促進するため、共通教育の一層の充実の支援と、社会が大学に求める人材育成に即応する効果的なカリキュラムの提供を目的として設置。本センターでは、「共通教育プログラムの策定、運営及び評価」「資格課程カリキュラムの策定、運営及び評価」などを通して、本学学生の基礎学力の強化と、人として必要な知識と技能の修得の促進を図るとともに、その評価と検証を行う。

③ 具体的な構成員

法学部教授 捧 剛(共通教育センター長)
 教学事務部長 仙北谷 穂高(共通教育センター副センター長)
 人間開発学部教授 山田 佳弘(教務部長)
 教育開発推進機構教授 久保田 正人(英語教育センター長)
 文学部教授 笠間 直穂子
 法学部教授 川合 敏樹
 経済学部准教授 紺野 由希子
 神道文化学部教授 齊藤 智朗
 人間開発学部准教授 神事 努
 観光まちづくり学部准教授 清野 隆
 教育開発推進機構事務課担当次長 原田 佳昌
 教務課長 松本 忠和
 教務課主任 織田 泰輔(幹事)

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	3%	令和4年度予定	10%	令和5年度予定	20%
令和6年度予定	40%	令和7年度予定	60%	収容定員(名)	8,840

具体的な計画

履修者数・履修率を上げていくために、まずは本教育プログラムの普及に努める。4月当初の履修登録時に、新生生に対してはオリエンテーションで実施している「履修に関する説明会」、2年生以上の学生に対しては本学の学修支援システムを通して広報する。また、履修登録終了後も学修支援システムを通して定期的に広報すると同時に、共通教育センター委員が各々の所属学科にて本教育プログラムを積極的に広報する。

なお、本教育プログラムは令和3年度に開設し、令和3年度以降に入学した学生が対象となる。そのため、上記方法による広報を毎年度実施することで令和4年度から令和6年度までは計画している履修率を達成できると見込みである。また、授業評価アンケートを各年度で実施し、共通教育プログラム科目マネジメント会議で本教育プログラムの自己点検・評価を行う。その結果を共通教育センター委員会で分析し、本教育プログラムを改善・進化させることによって令和7年度以降の履修者数増加につなげる。従って、各年度の目標値を達成するための具体的な方策は以下のとおりとなる。

令和4年度 説明会・学修支援システム等を通じた広報、授業評価アンケートの実施と分析
 令和5年度 同上
 令和6年度 同上、本教育プログラムの改善・進化
 令和7年度 同上、新しい教育プログラムの実施

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラムを構成する「データ・リテラシー」「コンピュータと情報Ⅱ」は、いずれも共通教育科目として開講している。学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講できる体制は整備済みで安定的な運用を行っている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「WEB時間割表」や「履修要綱(冊子)」等の学生が必ず目を通す媒体を通して、本教育プログラムの履修に必要な情報を確認できるようにしている。また、新入生に対しては「履修に関する説明会」、2年生以上の学生に対しては学修支援システムを通して、履修漏れのないう周知徹底をしている。また、WEBサイト上でも本教育プログラムの周知を行っている。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

組織的な対応としては、共通教育センター委員会に、専門分野の異なる多様な教員が参画するようにしている。これにより、予備知識や学問的興味の異なる多様な学生に対して、それぞれに見合った支援を行える体制となっている。また、技術的な対応としては、学修支援システム上に教材を蓄積し、学生が自身の理解度に応じて、いつでも予習・復習できる環境を構築している。これにより、できる限り多くの学生が、意欲的に受講し、学修内容を修得できる環境を整えている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

従来から設けているオフィスアワーを活用した学修指導や質問対応を行うだけでなく、学修支援システムには本教育プログラムを含む全科目の履修が登録されているため、学生はこのシステムを利用することで疑問点等を確認することができる。また、学修支援システムのQ&A機能を利用することによって、学生は担当教員と一対一で質問に関する指導を受けることができる。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学内からの視点</p>	<p>開講している全ての科目の履修・修得状況については、教務課で管理しているデータベースによって確認することができる。そのため、本教育プログラムを構成する科目の履修・取得状況についても、教務課のデータベースを利用して分析している。また、学修支援システムを利用することで、受講者毎の授業進捗状況や課題への取組状況を確認することができる。</p>
<p>プログラムの履修・修得状況</p>	
<p>学修成果</p>	<p>共通教育プログラム科目マネジメント会議が中心となって修了生の成績を分析することで、本教育プログラムによる学修成果を測ることができる。また、修了生による資格試験合格などの履歴を追跡することによっても学修成果を測ることができる。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>受講生全員に対して授業評価アンケートを実施して、その結果を分析し、共通教育プログラム科目マネジメント会議で検証する体制を整えている。アンケートでは、定量的評価を目的とした多肢選択式項目に加え、自由記述項目も設けており、本授業内容を理解した結果が、普段の行動に反映されている様子が確認できた。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本教育プログラムの修了生に対して実施する事後アンケートの一環で、後輩学生や他の学生への推薦内容についても質問項目を設け、その回答を本教育プログラムのウェブサイトに掲載するなどの形で、他の学生の履修と修了を促進する。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>共通教育プログラム科目マネジメント会議が中心となって、本教育プログラムの履修状況を分析、履修者数や履修率向上に向けた計画を立案し、進捗状況を管理する。また、履修者数や履修率の向上に向けて、履修に関する説明会や学修支援システムなどで広報を継続的に推進する。</p>

学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本教育プログラムは令和3年度に開設し、対象となる学生は令和3年度以降に入学した学生となるため、卒業した学生はいない。そのため、修了者が卒業する令和6年度に、活躍状況や企業等の評価を確認するための仕組みの準備を進めている。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学では共通教育プログラム科目マネジメント会議を設置しており、当会議を中心に本教育プログラムの履修・修得状況を調査する。また、当会議には産業界の外部有識者を招聘し、産業界からの視点を含めた意見を本教育プログラムの運用に反映することができる。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本教育プログラムでは、学生にとって身近な話題を具体例として取り上げ、演習に活用するデータも実データを使用することで、データサイエンスやAIが実社会でどのように活用されているかが理解できるように工夫している。また、学生が使い慣れている表計算ソフトを使って、大規模な実データを取り扱う技術を修得しながら、数理・データサイエンス・AIの活用を実体験できるような演習を取り入れている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本学では、本教育プログラムに限らず、全科目に対して授業評価アンケートを実施している。このアンケートから受講生の内容の理解度を把握することにより、内容・水準を維持・向上しつつ、授業内容の理解度を高める工夫が可能となる。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/curriculum/p1>